

陶人推協
陶小PTA

平成29年度
陶地区人権学習推進大会・陶小学校人権教育推進大会開催
「難病と社会的弱者への理解を深めよう」(仮称)

講師(予定)：NPO法人みらいプラネット(山口県難治性血管奇形相互支援会) 理事長 有富 健 様

○日 時 10月12日(木) 13:40~14:25 陶小学校授業参観
14:40~15:50 講演会 ※時間は変更になることがあります。

○場 所 陶小学校体育館

○主 催 陶地区人権学習推進協議会
陶小PTA

○問合せ 陶地域交流センター

※託児を希望される場合は、9月26日(火)までに陶地域交流センターへお問合せください。

※詳細は、まるごと陶No.71で・・・

地域広報誌NO. 72
まるごと陶
平成29年 11月1日

地域広報誌NO. 70
まるごと陶
平成29年9月1日

陶人推協

陶小学校

陶小PTA

10/12(木) 平成29年度 陶地区人権学習推進大会
講演会「難病と社会的弱者への理解を深めよう」

講師：NPO法人みらいプラネット(山口県難治性血管奇形相互支援会) 理事長 有富 健 様 (参加者147人)



NPO法人「みらいプラネット」が作成したDVD「咲き誇れ、強く-Irreplaceable- (英語で、かけがえのないの意)」は、差別や偏見の解消を訴える啓発ドラマで、わかりやすく思いやりの心を理解することができました。

原因不明の難病を患う講師が、病名をつき止めるまでに受けた様々な体験をもとに、相手を理解する心の大切さについてご講演いただきました。



寄り添う気持ち大切に

難病患者、理解不足の苦しみ訴え

陶地区人権学習推進大会は12日、陶小（末富健二校長、83人）で開かれた。児童のほか、保護者や地域のお年寄りも出席。難病を発症し、周囲の理解不足なども体験した患者の講演を聞き、苦しんでいる友達に寄り添うことの大切さを学んだ。同地区人権学習推進協議会など主催。



有富さんから良き理解者を求めることの大切さを学ぶ子どもたち（陶小で）

陶地区で人権学習推進大会

講師を務めたのは、NPO法人みらいプラネット理事長の有富健さん（防府市）。有富さんは10年ほど前に、血管のねじれで痛みを伴う「難治性血管奇形」を患った。最初の4年間は医師の診断が得られず、全国の病院を転々としたという。休職を繰り返す中で、同僚からの理解もなかなか得られなかった。

講演では、自身の体験を基にしたDVDを上映。「違う職場に友達がいるから、何とか頑張れた。困っている人には優しい気持ちで手を差し伸べ、『一番の友達』をたぐさんつくって」と呼び掛けた。

有富さんは2011年に、同法人の前身である「県難治性血管奇形相互支援会」を設立。現在は職場復帰し、県内を中心に講演・執筆活動も続けている。（重岡）

陶人推協 陶小PTA

平成29年度
陶地区人権学習推進大会
陶小学校人権教育推進大会開催

「難病と社会的弱者への理解を深めよう」

講師：有富 健 様
NPO法人みらいプラネット
(山口県難治性血管奇形相互支援会) 理事長

○日 時 10月12日(木)
13:40~14:25 陶小学校授業参観
14:40~15:50 講演会(予定)

○場 所 陶小学校体育館

○主 催 陶地区人権学習推進協議会
陶小PTA

○問合せ 陶地域交流センター
※託児を希望される場合は、9月26日(火)までに陶地域交流センターへお問合せください。

宇部日報
平成29年 10月13日

地域広報誌NO.71
まるごと陶
平成29年 10月1日

学校だより

あ い お



NO.8 平成29年12月1日

11月は比較的暖かい日が続きましたが、12月に入りいよいよ本格的な寒さが訪れます。ニュースによると、すでにインフルエンザが流行しているようです。栄養、休養を十分にとり、手洗い・うがいを確実にし、体調管理に気をつけたいものです。特に、3年生は進路選択に向けて大事な時期を迎えています。家族や周囲の協力も必要ですが、まずは自分で体調管理をしてほしいと思います。

一人ひとりが考えた人権教育

11月18日(土)に「NPO法人みらいプラネット」理事長の有富健さんをお迎えして、人権教育講演会を実施しました。有富さんは、「笑顔あふれる共生社会の実現」を活動目標の一つとし、難治性血管奇形という病気の啓発や、差別のない社会、人が人として大切にされる社会の実現のために精力的に活動されています。講演会では、「人は第一印象ではわからない」人の立場に立って「人に寄り添う」ことの大切さについて生徒たちに語られました。そして、中学生にわかりやすくアニメやドラマの言葉を当てはめ「自分が変わる」というお話をしていただき、勇気を与えられました。ご自身の辛い闘病生活の体験から語られる言葉の一つひとつに重みがあり、身を乗り出して真剣に聴く生徒の姿が印象的でした。保護者の方からも、「夢という言葉、意味、仲間、友達、和について改めて大切だと思い知らされました。」「人権について子供と家庭でしっかり考えるきっかけになりました。」などの感想が多く、学校、家庭、地域それぞれの立場で、共生社会の実現について改めて考えさせられる貴重な機会となりました。



生徒感想

今回の講演で思ったことが3つあります。1つ目は、「人生を無駄にしてはいけない」ということです。有富さんは血管奇形になっても必死に生きておられ、僕たちに命の大切さを考えさせてくださいました。2つ目は、「第一印象で人を決めつけない」です。第二・第三印象がわかってこそ、その人の本当のことがわかるので、勝手に決めつけないことが大切だと思いました。3つ目は、「いつどこで誰が血管奇形になるかわからない」ということです。生まれつき血管奇形になっている人もいれば、高齢者になってから血管奇形になる人と様々で、僕もいつ難病になるかわかりません。それなのに有富さんは、10年もの間、病名がわからず、ずっと耐えてきたことが素晴らしいと思いました。これができたのも、家族、友だち、周りの人に支えられて耐えてこられたんだろうと思い、人の支えがとても大切なんだろうと思いました。

2年 國重陽君

全力で取り組んだ浜村杯秋穂ロードレース大会

11月19日(日)県内外から1000人以上の参加者を迎え、第26回浜村杯秋穂ロードレース大会が盛大に開催されました。前日から、たくさんのお客様をお迎えするため、学校周辺のコースのごみ拾いや、スタート・ゴール地点である本校のグラウンド等の清掃や飾り付けを全校生徒が心を込めて行いました。生徒は、中学生の部3kmに参加し、自分の心と戦いながら、強い精神力でゴールをめざしていました。完走した生徒たちの清々しい表情が、とても印象的でした。



地域参加する団体の取組み①

「未来に向かって」

笑顔あふれる共生社会の実現をめざして

NPO法人みらいプラネット 理事長 有富 健

「二次被害」とは何でしょうか?生命・身体・財産などに対する直接の被害を一次被害と言いますが、その一次被害に起因する様々な被害、たとえば周囲の噂や偏見、好奇の目で見ることなどにより被害者の「人間としての尊厳」を傷つけることを二次被害と言います。自分より弱い立場の人への先入観による差別やいじめもすべて二次被害です。患者、障がい者、災害・犯罪被害者、父子母子家庭等々あらゆる社会的弱者といわれる方たちはこのような二次被害に傷つき苦しめられています。立場や考えが異なると人を非難しがちですが、互いに尊重し合う笑顔あふれる共生社会を実現したいものです。そのためには「わかってあげようとする心」、「その人を理解しようとする気持ち」が不可欠です。

みらいプラネットでは、『笑顔あふれる共生社会の実現』に向けてそんな「心」の育成のための活動をしています。

設立当初は難治性血管奇形という難病の啓発活動のみでしたが、生活をするうえで二次被害による苦しみは、患者だけでなく社会的弱者共通の課題であることを知り、現在では病気の啓発に加え、差別や偏見を



▲愛情防府フリーマーケットでの街頭啓発風景 (平成29年10月14日)



▲熊本地震復興支援チャリティーによるフランス人画家と園児の共同画制作の様子 (平成28年11月18日於玉祖幼稚園)

なくし人権を大切にした人間的に豊かな生活の実現のための「人権擁護活動」を行っています。そのため、「人の心の痛みがわかる健全な心の育成」、「思いやりの心など豊かな人間性を育むための次世代教育の推進」の一助となる学習啓発DVDを制作し、昨年から全国の小中学校に順次、配布しています。また、地域や企業、学校等に対して、メンタルヘルス研修、人権講演、執筆活動や街頭啓発を行っています。

特に、個別カウンセリング事業では、設立以来5年間で延べ600件を超える相談実績となっています。そのため、スタッフ一同も常にカウンセラーとしての研鑽を積むことにしています。プラネットとは、恒星の周りを回転し、自らは光を発しないで恒星の光を反射する天体のことです。みらいプラネットも笑顔あふれる未来のためにお手伝いできる、頼りにされる脇役でありたいものです。



▲全国小中学校配布を行っている学習教材DVD「咲き誇れ、強く—Irrreplaceable—」



▲塩崎恭久厚生労働大臣に学習教材DVD、原作本を手交。(平成28年6月21日)